

4. 検証結果

- ①回遊性(立寄り箇所)向上
 - ・仮設歩道の設置がまちの回遊性向上に寄与
- ②来街者の滞在時間増加
 - ・約33%が「まち全体で過ごす時間がのびた」と回答
- ③仮設歩道利用者の行動種別
 - ・行動種別の増加に寄与(平常時は9種類、仮設歩道設置時は12種類)
- ④仮設歩道の利用者数
 - ・平日に1,000人以上と多数の利用者を確認
- ⑤まちの魅力向上に対する満足度
 - ・約72%が「5段階評価の上位2つ」を選択
- ⑥維持管理方法に対する意見
 - ・不満はほとんどなかったことから、維持管理方法は適切
- ⑦既設歩道上の歩行者環境改善
 - ・スマホ操作等が仮設歩道上で行われることで、歩行者環境が改善



図-5 荷さばき集約化実験 (2次デポ)

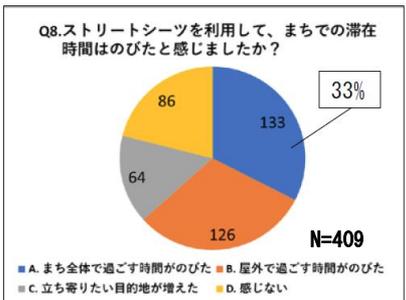
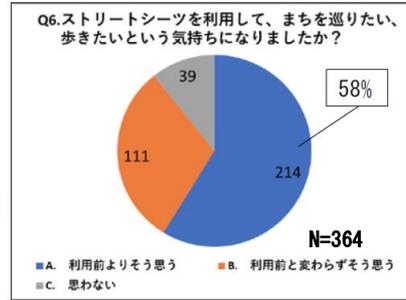


図-3 アンケート調査結果



既設歩道上でのスマホ操作による歩行の妨げ



スマホ操作等が仮設歩道上での実施に移ることで歩行者環境の改善

図-4 歩行者環境の改善

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

- ①道路空間の活用による賑わい創出実験
 - ・持続的な取組みとするために、エアーマネジメント等により収入を得て、運営費用や管理費用等の捻出方法
- ②荷さばき集約化実験/駐車場所・駐車時間の適正化実験
 - ・参加店舗数・参加納入業者数の確保
 - ・本格実施に向けた1次デポ、2次デポの確保
 - ・取扱い荷物の範囲(例:食品等)の制約の拡大
 - ・地域内の荷さばきルールの検討